



～タイトル「玉燈」よせて～

「玉」は立派なものに磨きあげる、「燈」は教え、照らすを表し、「子どもへの愛育」と「情熱に満ち溢れる教師道」をイメージしています。また、「玉燈」は、郷土の先人 國友一貫斎の代表的発明品としても知られています。

「教育は振り子のように極端に振れたかと思うと次は逆方向に大きく振れる」

長浜市教育委員会事務局 教育センター所長 橘 憲照

今年の雪は多いかなどと思い巡らせているうちに春の日差しが注ぐ季節となりました。今年度も終わろうとしているこの時季になると表題の言葉を思い出します。ずっと以前ですが、学習指導要領の改訂に関わっておられたとある先生の弁です。そんなことを思い起こしてつい先頃、とある場で教育課程の審議委員をされている方のお話があり、次期指導要領改定の事業をスタートしたという話題が出ました。現行の要領は今日的な課題からかつてないほど学習量が過多の状態にあり、主体的な学習を期待することが難しいことから内容の精選を考えているというものでした。「ふりこ」がふれ戻り始めたと思いました。全国の学校現場では授業時間のやりくりが課題となっていることから内容を見直す動きは喜ばしいことです。

一方で、学習指導要領の改訂に対して、わたしたちは当事者意識を持って注視していかなければなりません。過去の経験からは、かつて巻き起こった「これからは『円周率は3』で教える」という大論争が思い起こされます。2002年度の本格実施とする小学校学習指導要領が改訂されたときのことで、算数科の内容について「それまで3.14と教えていた円周率の近似値をこれからは3と教えることになった」という風評が広まり、このままでは「学力が低下する」という大論争に発展したものです。あたかも学力を下げているのは文部省(当時)、教育委員会であるというような論調でした。実際にはこれは事実ではなく、一部大手の進学塾のキャンペーンに始まった内容が、独り歩きしたことが今では明らかになっています。冷静に考えるとおかしな話なのですが、当時、マスコミの報道に対して自分も含めた教師がだれも異を唱える姿がなかったことが不思議なことでした。

当時の時代背景もありましょうが、日々子どもと向き合っているはずの現場教師に事実を見つめる目、当事者意識が欠けていたといってもいいでしょう。

主体者意識を持って教育課程をとらえていきたいものです。とは言え遠くばかりを見て足元を見失うようなことになってはいけません。目の前の子どもを第一に考えることは教師として当然です。かつての経験で、担任した子どもの中に大らかながらちょっとみんなと歯車の合わない子がいました。当時にはめずらしく積極的に手を挙げるものの指名しないとふてくされ周りに当たり散らし、指名されるとふざけて授業を妨げさらには教室から飛び出すタイプの子供です。その子のことで当時は思い悩んでいたはずなのに、今思い返すと詳細は覚えておらず、一緒に苦労した仲間のような思い出となっています。

教育学者の佐藤学氏による「教室の小さな物語」という文章の中に、「教師の喜びはそれぞれの子どもとの日々やりとりやわずかな成長のあしあとを見とる楽しさであり、毎日にドラマがある」とありましたが、当時の思い出についてはまさにその心境です。

本年度応募されたセンターの教育論文にもそんな自覚級の子供たちとのやりとりや奮戦する教師のドラマが、数々記されていました。子供たちと先生との関わりが綴られており、市内のどこかの教室でそんなドラマが繰り広げられていることが伺え、若い先生方の奮戦の様子にご苦労を察しながら、温かい気持ちになれた次第です。

学校教育の課題や期待はふくらみ、日々苦労は尽きぬ中であろうかとは思いますが、目の前の子供たちへの関わりを続けていただきたいと思えます。表題にあげた先生の談話には続きがあり、こう述べられました。「そうしながら、教育は前へ前へと進むのだ」

令和5年度

長浜市教育研究発表大会

2月7日（水）に浅井文化ホールにて4年ぶりの研究発表大会を開催しました。市外からもたくさんご参加いただき、会場には432名、ライブ配信で約200名と盛大な大会が実現しました。ありがとうございました。現在長浜市内教職員向けにオンデマンド配信を開始しています。ぜひ、皆様ご覧ください。



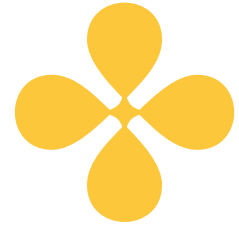
教育講演会

社会の変化とこれからの学校教育 ～主体性と当事者意識～

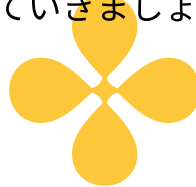
横浜創英中学・高等学校長 工藤 勇一先生

ご多様の中、東京から長浜市まで足をお運びくださいました。講演では工藤先生の一言一言に目が覚めるような感動を覚えました。「赤ちゃんの頃から主体性のない子どもはいない」「個別最適化は子どもが選択し、試行錯誤しながら進めていく」「当事者意識がないと、うまくいかないとなりのせいにしてしまう」「みんなが当事者意識を持って対話する」「最上位目標は何か」など、工藤先生の深い洞察と多くの実践から、学校教育ですべきことは何かを学ぶことができました。

工藤先生の講演は教育に携わる者にとって、更なる学びを求める気持ちを掻き立て、今のあり方を見つめ直すきっかけとなりました。また、子どもたちのために何ができるのかという教育者としての情熱を再認識できました。ここで得た学びを行動へとつなげていくことで、意味あるものとしたいものです。私達教職員が「当事者意識」を持って、今後も長浜市の子どもたちが学びの主体者となる教育を目指していきましょう。



アンケートより



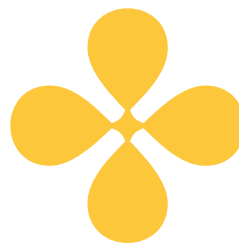
自律した子どもを育てたいと思いながら、子どもたちの主体性や当事者意識を奪ってしまう指導をしていたと気付かされた。子どもたちのために教えていただいたことを明日から意識して取り入れていきたい。

工藤先生のお話を会場で聞いてよかったです。今学校に必要なことについて職員室で対話する大きなきっかけになりました。ありがとうございました。

私自身の考え方が大きく変わるような講演でとても勉強になりました。特に感じたことは、当事者意識を私自身も子どもたち自身も持てるようにするということです。

私自身が子どもたちへの声かけや授業アプローチを一つ一つ吟味し、変えていきたい。あずかる子どもたちにとって、教員や教室が彼らの心理的安心を得られる場所であるよう努力したいと強く思います。

令和5年度 教育研究奨励事業



今年度は市内校園から35点の応募をいただきました。「学級経営」「不登校支援」「授業改善」「ICT教育のあり方」「保健指導、安全・性・食育教育」など様々な分野における研究が見られました。「構成力」「表現力」「研究内容の充実度」など11の観点から厳正に審査させていただき、9名と1グループの先生方が入選されました。

ご報告いただいた論文は、先生方の現場での課題意識に基づく、素晴らしい内容でした。日々自己研鑽と実践を重ねておられることに敬意を表します。

受賞された先生方 (敬称略)

| 校園名 | 氏名・グループ | 研究主題 (副題は省略) |
|--------|-------------------|-------------------------|
| 長浜小学校 | 教諭 永井大樹 | 誰一人取り残さない学級を目指して |
| 長浜小学校 | 教諭 北川菜絢 | 思いやりをもって行動できる子どもを育てるために |
| 南郷里小学校 | 教諭 今村貴裕 | 1人ひとりと向き合う支援 |
| 湯田小学校 | 教諭 小川浩史 | 児童の居場所となる学校づくり |
| 浅井小学校 | 教諭 松澤杏実 | 豊かな人間関係を育てる学級経営に関する研究 |
| 速水小学校 | 教諭 堀江咲光 | キラキラかがやく学級へ |
| 富永小学校 | 教諭 今井雪乃 | 児童の心理的安全性の向上を目指した保健室の取組 |
| 古保利小学校 | 教諭 小倉蓮矢 | 授業改善と学級経営 |
| 湖北中学校 | 教諭 日置悠介 | 学級経営における課題 |
| 南郷里幼稚園 | 研究グループ代表 桐畑 良美 | 心豊かでたくましく生きるこどもの育成を目指して |

末尾ながら、本年度研修にご参加いただいた先生方、教育研究奨励事業にご応募いただいた先生方、研究をはじめ諸事業でご協力いただいた先生方、そして、多大なるサポートをいただいた管理職の先生方に心よりお礼申しあげます。今後とも当センターの研究・研修事業に対しご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

No one will be left behind.

～誰一人取り残すことのない教育に向けて～

教育相談室より

長浜市役所 浅井支所 2F

TEL : 74-3702

教育相談室 発達支援グループ

発達サポート事業（オプトメトリスト・作業療法士）

今年度の発達サポート事業は、20校38名の児童および6学級を対象として実施しました。今年で4年目となり、担当の先生方や通級指導の先生方には指導内容や時間調整等、円滑な計画にご協力いただき、ありがとうございました。今年度ご協力いただいた実施校アンケートの回答を一部紹介します。

自立活動の様子を見ながら、具体的に助言をいただいたので、その後の教育活動に活かすことができてよかった。

児童の特性や困り感だけでなく本人の強みについても教えてもらうことで学びの違いを認めて、児童に合った支援や授業を展開していく大切さがわかった。

児童のアセスメントの視点も教えていただいた。指導に役立つ具体例をたくさん教えてもらうことができた。

対象児童のみへのアドバイスだけでなく、幅広い支援方法や支援教具等のお話がうかがえてよかった。

また、今年度より『つなぎ支援コース』として、就学前から小学校への切れ目の無い支援を目指した事業活動を展開しました。療育等で実践されている支援を小学校へと引き継ぎ、専門家の取り出し指導や学級内の環境調整の実施の中で、児童に関わる先生方には支援の継続と理解向上に努めていただきました。

令和6年度も発達サポート事業を募集いたします。校内でご検討いただき、お申し込みをお願いします。

教育相談室 登校支援グループ

安心できる居場所の一つとして

文部科学省は、誰一人残されない学びの保障に向けた不登校対策として「COCOLOプラン」を取りまとめました。ここ数年で、不登校を巡る支援や考え方が大きく変化してきているように感じます。

今日、不登校はどの子にも起こりうる問題です。その原因は個々によって様々であり、いくつもの要素が複雑に絡み合っているように思えます。「なぜ行けないのか」「行きたいのに行けない」と、子どもたち自身も自分でもどうしようもできない状況に困惑しているのではないのでしょうか。

そんな子どもたち学校の学校以外の学びの場、安心できる居場所の一つとして「こどもサポートルームなないろ」があります。今年度も市内の小中学生が利用し、ゲームや軽運動、ものづくり、学習など、個に沿った様々な活動に取り組みました。

なないろへの通室を通して、家でのみ過ごしていた子が、人と関わることに慣れ、通室を楽しみに外へ出るきっかけとなりました。また、放課後登校をしている子が、昼間の時間に通室し、ゲーム活動等で同年代の仲間と関わるできるようになりました。

不登校支援は、様々な形で広がっています。支援の方法も一つではありません。いくつもの支援の場や方法があることをまずは先生や保護者、大人が知ることが大事なのではないのでしょうか。

子どもたちが何に困っているのか、どういう思いでいるのか・・・子どもたちにそっと寄り添いながら、より良い支援のあり方を一緒に考えていけたらと思います。

来年度も、「こどもサポートルームなないろ」がさらに多くの子どもたちにとって、安心できる居場所であることを目指すと同時に、より充実した学びの場となるよう取り組みます。

教育センター教育相談室では、発達サポート事業や「こどもサポートルームなないろ」の運営のみならず、発達に課題のある子どもたちや不登校、行き渋りの子どもたちの教育相談や発達検査の依頼をお受けしています。一人一人の成長や発達の過程、困り感に寄り添い、適切な環境設定、サポート体制を提供することが求められる中で、お困りのことがございましたら、ぜひご相談ください。一緒に考えましょう。

